

「枕草子 ―かたはらいたきもの―」

本文中で各例を筆者が「かたはらいたし」と批評する理由を考えてみよう。

第2段								第1段							
P55. L6～終わり								初め～P55. L5							
理由	事例⑧	理由	事例⑦	理由	事例⑥	理由	事例⑤	理由	事例④	理由	事例③	理由	事例②	理由	事例①
----- ----- -----	ことによしとおぼえぬわが歌を、人に語りて、人のほめなどしたるよし言ふ。	----- ----- -----	才ある人の前にて、才なき人の、ものおぼえ声に人の名など言ひたる。	----- ----- -----	にくげなるちこそ、おのが心地のかなしきままに、うつくしみ、かなしがり、これが声のままに、言ひたることなど語りたる。	----- ----- -----	旅立ちたる所にて、下衆どものされぬたる。	----- ----- -----	聞きぬたりけるを知らで、人のうへ言ひたる。	----- ----- -----	思ふ人のいたく酔ひて、同じことしたる。	----- ----- -----	客人などに会ひてもの言ふに、奥の方にうちとけ言など言ふを、えは制せで聴く心地。	----- ----- -----	よくも音弾きとどめぬ琴を、よくも調べ、心の限りひきたてたる。